

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結

作成日 平成26年5月19日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0895600062		
法人名	医療法人 正信会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護 たまり	ユニット名	—
所在地	〒311-3434 茨城県小美玉市栗又四ケ2288-7		
自己評価作成日	平成25年11月25日	評価結果 市町村受理日	平成26年5月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_021_kani=true&amp;JigyosyoCd=0895600062-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=021">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_021_kani=true&amp;JigyosyoCd=0895600062-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=021</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年1月15日	評価機関 決 済 日	平成26年5月13日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>事業独自の理想を掲げられている「いつも元気で笑顔がいっぱい」を目標に、明るく健康で楽しく過ごしていけるよう健康管理とレクリエーションに力を入れている。</p> <p>また、介護者の力になれるよう常に希望に沿った利用法を提案し、ディサービスであっても、朝食と夕食を提供しているので、仕事を持つ家族に喜ばれている。月に一回は、行事を行い、四季折々の食事も楽しんでいただいている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>住宅街にある事業所で、自治会の班長が運営推進会議に参加したり、事業所主催の納涼祭に参加したりしているほか、日頃より事業所に立ち寄り声をかけてくれるなど、協力関係を築いている。</p> <p>近隣住民宅に招かれて利用者と職員と一緒にピザ焼き体験をするなど、日頃より地域と交流を持ちながら、楽しく生活ができる環境となっている。</p> <p>「温泉ツアー」と称して市が運営する温泉施設への外出を支援しており、利用者の楽しみの一つとなっている。</p> <p>事業所は家族等の介護負担軽減や仕事を持つ家族の希望に柔軟に対応ができるよう、通いサービスの送迎時間を朝6時から夜9時まで対応したり、希望に応じて三食を提供したりしており、利用者や家族等の安心につながっている。</p> <p>管理者はサービスの質の向上を目指し、利用者や家族等、職員の意見に対して常に耳を傾けるとともに、出た意見や要望には迅速に対応しており、利用者にとっては居心地がよく、職員にとっては働きやすい環境となっている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体としては「富める人、貧しき人、すべての人に、心のこもった医療福祉を」を社訓に事業運営をしている。たまりでは、独自の理念を作り、職員全員でその理念を共有し実践につなげている。	法人の理念と地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を食堂に掲示し、職員がいつでも確認ができるようにしている。 管理者と職員は月1回の全体会議時に理念を唱和して共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り等への参加、近所の方との交流を積極的に行ったり、会合等にも出席している。	利用者は職員と一緒に地域の祭りに参加しているほか、市主催の「にっこり祭り」に利用者と職員と一緒に制作した貼り絵や手作りおもちゃなどの作品を出品して地域と交流している。 地域のボランティアによるフラダンスや民謡、腹話術、マッサージ、ハーモニカやギター演奏などを受け入れているほか、利用者と職員が近隣住民宅でピザ焼きを体験するなど、職員は利用者が日常的に地域とつながりが持てるよう支援している。 事業所主催の納涼祭に家族等や地域住民を招待し、利用者が地域の人々と交流ができる機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が、積極的に勉強会や研修等に参加し、知識を高めているところである。今後この実績をもとに地域の人々に理解及び支援を呼び掛けていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度より実施している。利用者の生活の様子や、行事などの報告、情報交換などを行うと同時に、意見や要望などを頂き、今後のサービス向上に活かしていく。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、自治会班長、民生委員、近隣住民の代表、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の生活の様子や行事の報告をしたり、意見交換をしたりしているほか、利用者や家族等に市社会福祉協議会が行っている外出支援サービスやそば打ち体験を紹介したりするなど、情報交換の場ともなっている。 火災時に消防署に通報すると、事前に登録している職員などの電話に自動で連絡が回る仕組みになっている「火災通報電話オートシステム」の登録者について、委員に協力を呼びかけたところ、近隣住民の協力を得ることができている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者について日頃から、不明な点や相談したいことなど、気楽に相談ができ、助言をいただいている。今後ますます協力関係が深まるよう取り組んでいく。	管理者は月1回市担当者を訪問して利用状況や利用者の様子などを報告するほか、電話で相談して利用者の病状に合った医療機関を紹介してもらったりしている。 住宅改修や生活保護を受給している利用者の支給されるお金についてなど、利用者や家族等の相談ごとに市担当者が対応している 地域包括支援センターから依頼を受けた「利用を拒否している困難事例」でも、事業所では訪問サービスから徐々に慣れるように対応しており、事業所と市担当者は互いに協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアの実績に取り組んでいる。職員各自が正しく理解できるようミーティング時などに学習している。	身体拘束排除に関するマニュアルを整備し、年1回職員の内部研修を行うとともに、管理者と職員は日頃より身体拘束をしないケアを実践している。 現在身体拘束の対象者はいないが、身体拘束排除マニュアルの中に言葉による拘束が全く記載されていない。 やむを得ず身体拘束が必要となった場合には、利用者や家族等に説明し、書面で同意を得るとともに「経過観察記録」と「再検討記録」を整備している。 玄関は施錠せず、いつでも出入りができるよう支援している。	身体拘束排除マニュアルに言葉による拘束の内容を記載するとともに、全職員で共有することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に虐待防止の意識を高め、日々の介護の中で見過ごすことのないよう注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の人権を擁護することの重要性を学んでいる。利用者個々の必要性を話し合い、関係者及び地域包括の方等に相談し、活用できるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に、契約書、重要事項説明書で、十分な説明を行い、理解納得していただけるよう配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見、要望を気楽にいただけるよう手紙をだしたり、玄関に意見箱を設置している。意見、要望をいただいた時には、速やかに、職員皆で話し合い、検討し対応している。また、苦情相談受付窓口を重要事項説明書に明記している。	玄関に意見箱を設置しているほか、職員は利用者や家族等が意見や要望を出し易い関係づくりに努めているが、家族アンケートを実施するまでには至っていない。 職員は利用者からは日々の会話の中で意見や要望を把握しているほか、家族等からは送迎時や連絡帳で話を聴いている。 仕事をしている家族から出た「送迎時間を柔軟に対応して欲しい」との要望を受け、通いサービスは早朝6時から夜9時まで対応し、食事も三食提供している。	無記名の家族アンケートを実施し、運営に関する利用者や家族等の意見を汲みあげることが期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で職員の意見や提案などを聞く機会を設け、運営に反映させている。	管理者は毎朝のミーティングで職員の意見や要望を聞く機会を設けているほか、休憩時間を活用して個別に話を聞いている。 職員の提案を受けて食事前に口腔体操を取り入れたり、「体を動かす時間を増やした方が良い」との意見を受け、テレビ体操を録画して利用者と職員が一緒に行うなど、職員の意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体の病院で、月1回の定例会議を実施し、要望や意見などを話し合い、職員一人一人が向上心を持って働けるよう配慮、対応に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の採用時一か月の見習い期間を設け施設内の業務を指導し、採用の決定をしている。日常的に学びながら経験を積み、各研修に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域密着型介護サービス事業所協議会が平成24年6月に発足した。その協議会の研修会、親睦会に積極的に参加し、同業者との交流を深め知識向上に努めている。また、施設内でも研修や勉強会を実施し、事例検討を通じて、介護技術、サービスの向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談時より信頼関係を築いていけるよう努力している。本人及び家族と面会を行い、不安や心配を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分な話し合いを行い、家族の思いをよく聴き理解し、良い関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所のサービス調整だけでなく、包括的な支援の確立を心掛けている。関連施設との情報交換などを行い、「その時」の対応にそなえられるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安心で安全に楽しく過ごすことが出来る様、できる作業は一緒に行い、協力をいただきながら、良い関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、近況報告し、安心していただけるよう配慮している。本人と家族の絆を大切にしながら、私たちも一緒に本人を支えていくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が、ずっと続くよう、地域の方々に協力を得ながら、支援していくよう努めている。	管理者と職員は、利用者の友人や知人がいつでも来訪でき、今までの関係が継続できるよう支援している。 利用者が行き付けの美容室利用や馴染みの店での買い物を希望した場合は、連絡ノートを活用したり、送迎時に家族等に伝え、希望が叶うよう支援するとともに、家族等が対応困難な場合は職員が支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人が互いに関わり合い、支え合うような環境を作り支援していくよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて、相談や支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との日常のかかわりの中で、コミュニケーションをとりながら、本人の希望や意向を把握できるように努めている。常に利用者の立場に立って検討している。	職員は日々の会話の中で利用者の思いや意向を把握している。 思いを表出できない利用者の場合は家族等から話を聞いたり、利用者の好きな話をして表情やしぐさから思いを推し計っている。 把握した内容は毎朝のミーティングで話し合うとともに、申し送りノートに記録して全職員で共有しているが、個人記録に記載するまでには至っていない。	利用者が発した言葉や意向などを個人記録に記載するとともに、全職員が共有できるようにアンダーラインを引くなど、工夫をすることを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時には十分なアセスメントを行い、これまでの生活環境や、馴染みの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムを理解し、その人に合った過ごし方で対応している。心身の状態や様子などを、記録し、申し送りノートを利用して、職員全員で現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の必要に応じてサービス担当者会議やカンファレンスを行い、介護計画を作成している。本人の変化時も話し合いを基に現状に即して介護計画を作成している。	介護計画は利用者の意見や要望を取り入れるとともに、送迎時などで家族等から聴いた意見や要望を反映させて作成している。 6ヶ月毎にモニタリングを実施しているほか、短期計画は3ヶ月毎、長期計画は6ヶ月毎に見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録用紙に生活の様子や体調の変化などを記録している。介護日誌、申し送りノートで情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用の変更についても、当日の連絡であっても可能な限り受け付けている。その時々ニーズに対応し柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の暮らしを支えている地域資源を把握していくよう努めている。困りごとや問題がある場合は、市、福祉課、包括に相談している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院にて、定期的を受診を行っており、24時間体制にあるため、医療体制は充実している。他病院への通院も希望に応じて送迎介助の支援をしている。	契約時に希望するかかりつけ医への受診が可能であることを利用者や家族等に伝え、意向を確認している。 月1回職員の送迎による協力医療機関への受診を支援し、受診結果を家族等に報告するとともに、申し送りノートに記載して全職員で共有している。 協力医療機関以外のかかりつけ医への受診は家族等の送迎を基本としているが、希望があれば職員が送迎することも可能となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師及び関連施設の看護師と情報を共有し、健康管理やケアについて、話し合い相談している。毎朝引継ぎで状態を把握し、個々の利用者に適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院に際し、安心して治療ができ、早期退院となれるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。 日頃より病院関係者との関係づくりを行うよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、母体病院と連携しており、看取り介護をしない方針をとっている。利用者の重度化に備えたマニュアルにて職員研修を行っている。	運営母体の病院と連携し、24時間の対応が可能となっているが、事業所は看取り介護はしない方針で、契約時に口答で利用者や家族等に説明して同意を得ている。 重度化した場合の対応マニュアルを整備し、年1回内部研修を実施しているが、重度化した場合の対応指針を明文化したり、同意書を整備するまでには至っていない。	重度化した場合の対応について、事業所の対応指針を明文化するとともに、書面で利用者や家族等に説明して同意を得ることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを職員全員が学習し、応急手当、初期対応の訓練を定期的実施して、実践力を身につけるよう努める。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者が避難できる方法を職員全員が、身に付け、地域との協力体制を築いていくよう努める。避難訓練を年2回実施してゆく。 また、災害に備えて食糧や飲料水等を備蓄しておくよう努めている。	年2回夜間想定を含む避難訓練を実施しているが近隣住民の参加を得るまでには至っていない。 避難訓練後に反省点を話合っており、「年2回の避難訓練だけでなく、日頃から訓練をすることが大切である」との意見が出たため、1ヶ月に1回、シミュレーションによる通報訓練を実施している。 災害時に備え、飲料水や缶詰、乾麺などを備蓄しているが、備蓄品のリストを作成したり、在庫を定期的に点検するまでには至っていない。	避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう、運営推進会議などで呼びかけることを期待する。 備蓄品のリストを作成し、賞味期限や在庫数などを定期的に点検することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の立場に立ち、人格を尊重し、プライドやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている。	職員は利用者一人ひとりの生活歴や性格を把握し、人格を尊重した言葉遣いや対応に努めている。 「プライバシー保護のための業務マニュアル」を作成しているが、排泄に関する内容のみとなっている。 プライバシー保護に関する内部研修を実施するまでには至っていない。 個人情報に関する書類は事務所の鍵のかかる棚に保管し情報漏洩に留意している。	「プライバシー保護のための業務マニュアル」を排泄に関する内容だけでなく、人格を尊重したプライバシーが確保されるような内容に見直すとともに、新しいマニュアルに基づき内部研修を行うことを期待する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人が発する言葉や表現を注意深く観察し、本人の思いや希望を表したり、自己決定できるよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や業務を優先するのではなく、一人一人のペースを大切にし、その日の過ごし方などの希望にそって、その人らしい一日が過ごせるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の個性や希望に合わせ、その人らしい身だしなみや、おしゃれが出来る様支援している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなるよう、一人ひとりの好みなどを知り、毎食職員が料理に力を入れている。食事中は楽しい雰囲気の中、会話をしながらゆっくり召し上がっていただいている。 テーブル拭きや片づけなど、利用者と一緒にやっている。	運営母体の栄養士が立てた献立の食材が毎日届き、職員が調理をしている。 職員は利用者一人ひとりの嗜好を把握し、魚が苦手な場合は焼き魚の身をほぐし、大根おろしで和えて盛りつけ、魚の形がわからないよう調理法を変えるなどして、無理なく食べられるよう工夫している。 職員は利用者と同じテーブルに着き、会話をしながら食事が楽しめるよう支援している。 雛祭りや子どもの日、クリスマス会などには行事食を提供しており、利用者の楽しみとなっている。 利用者はテーブル拭きや後片付けなどを職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通じて、必要な食事や水分が取られるよう、本人の体調や様子を見ながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い習慣化している。一人一人の口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人一人の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向け支援している。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングに合わせてトイレ誘導をしているほか、リハビリパンツを使用しながら排泄の自立に向けた支援をしている。 男子用便器の両サイドに手摺を取り付けることでトイレでの排泄が可能となり、失禁が改善した利用者があるなどの効果を得ている。 失敗した場合には周囲の人に気付かれないようトイレや浴室に誘導するなど、配慮した対応をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人の希望に合わせて、入浴を楽しんでいただけるよう支援している。	通いの利用者は午前中の中の入浴を支援し、宿泊の利用者は週2回の中の入浴を支援しているが、希望にそって予定日以外の中の入浴も可能となっている。 入浴を拒む利用者には無理強いせず、時間帯を変えて声かけをしたり、清拭や足浴などで対応したりしているほか、日を変えて入浴ができるよう支援している。 柚子湯で季節感を取り入れたり、入浴剤を使用し、入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や体調状況に応じて、休息していただいたり、安してリラックスしていただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬の目的、副作用、用法、用量について、理解を深め、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみや張り合いのある暮らしが出来る様、また、自分らしく過ごしやすい事が出来る様、役割、嗜好品、楽しみ事、気分転換等の支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外食等、本人の希望に沿って、戸外に出かける支援に努めている。普段は行けない場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるようにしていきます。	年間の行事計画を立て、春は市内で蕁狩りをしたり、秋は愛宕山へドライブや紅葉狩りに出かけたりしているほか、近隣にあるファミリーレストランで食事会を実施し、利用者の楽しみとなっている。利用者の希望にそって「温泉ツアー」を企画し、市が運営する温泉施設へ家族等と一緒に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じて、お金を所持したり使える様支援している。また、利用者の金銭を預かる場合は、家族と相談し合意を得て、事務所で保管し預かり証を発行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間 {玄関、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等} は、心地よく過ごせるように清潔に保ち、刺激の無いよう配慮している。生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。	食堂や浴室の脱衣所は床暖房となっており、一定の温度に保たれ快適な環境となっている。 玄関から居間、居間から廊下の間仕切りの扉は全て模様入りのガラスが取り付けられており、視界が良く明るさも保たれている。 食堂と廊下の壁には季節毎の行事の写真や職員と利用者が一緒に制作した貼り絵が飾られ、明るい雰囲気となっている。 食堂の一角にはベッドが設置され、利用者が体調に合わせていつでも横になれるよう配慮している。 食堂の隣には和室が設置され、昼食後に布団を敷いて利用者が昼寝に利用するなど、寛げるよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	休憩、泊まりの部屋はできるだけ同一の利用者が使用できるよう配慮し、使い慣れたものや好みのもをを活かし、安心して過ごすことが出来る様工夫している。	泊まりの部屋にはエアコンやベッド、ダンス、カーテン、洗面台が備え付けられている。 利用者は快適に過ごせるよう、自宅から使い慣れた時計や寝巻、洋服などの身の回りの物品を持ち込んでいる。 宿泊する場合には、前回と同じ部屋に宿泊ができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体機能の状態に合わせた危険の防止や自分の力を生かして動けることを支え、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能型居宅介護たまり

作成日 平成26年5月15日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束排除マニュアルに言葉による拘束の内容を記載すると共に全職員で共有する	*身体拘束排除マニュアルの中に言葉による拘束の内容を記載 *身体拘束排除に関わる研修	*身体拘束排除マニュアルの中に言葉による拘束の内容を記載する *ミーティング時などに繰り返し研修し知識を深めていく	3ヶ月
2	36	*「プライバシー保護の為の業務マニュアル」を排泄に関する内容だけでなく人格を尊重したプライバシーが確保されるような内容で見直す *新しいマニュアルの研修の実施	*「プライバシー保護のため業務マニュアル」の内容を人格を尊重したプライバシーが確保されるマニュアルに変更 *新しいマニュアルでの内部研修の実施	*「プライバシー保護のための業務マニュアル」の内容を人格を尊重したプライバシーの確保されるマニュアルに変更作成する *新しいマニュアルでのミーティング時などの内部研修の実施	6ヶ月
3	10	無記名の家族のアンケートを実施し、運営に関する利用者や家族等の意見を採みあげる	*無記名の家族のアンケートの実施 *利用者や家族等の意見を運営に繁栄	*運営等に関するアンケートを無記名にて実施 *意見を元に運営に繁栄していくよう努力していく	6ヶ月
4	35	*避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう運営推進会議などで呼び掛ける *備蓄品のリスト作成・定期的に点検していく	*避難訓練に近隣住民の参加を運営推進会議などで呼び掛けていく *備蓄品のリストの作成・定期的点検の実施	*避難訓練に近隣住民の参加を運営推進会議などで呼び掛ける *備蓄品のリストの作成・定期的点検の実施	6ヶ月 *リストは作成済・点検も実施している
5	23	利用者が発した言葉や意向など個人記録に記載すると共に全職員が共有できるようにアンダーラインを引くなど工夫する	利用者が発した言葉や意向など個人記録に記載しアンダーラインを引き職員全員で共有	*個人記録に利用者の発した言葉等を記載し、赤ペンでアンダーラインを引く *職員全員で共有していく	現在実施している
6	33	重度化した場合の対応について事業所の対応指針を明文化すると共に、書面で利用者や家族等に説明して同意を得る	重度化した場合の対応については事業所の対応指針を作成し、利用者や家族に同意を得る	*重度化した場合の対応マニュアルの作成 *重度化した場合の対応に対しての利用者や家族に同意書に署名・捺印をもらう	現在実施している

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。